

石崎神社

通称「かっぱ祭り(かっぱ市)」として親しまれている石崎神社例大祭。

神事や地区の子供会による子ども神輿パレードのほか、地区内のおよそ 350m の歩行者天国となった道路上に約 30 の露店が出店する。昔からかっぱ祭りの日は雨が降ると云われている。

石崎神社は須佐之男命(スサノオノミコト)を祀り、きゅうりの神様としてきゅうりをお供えすることから「かっぱ神社」とも呼ばれている。

牛頭天王社(後の石崎神社)は城主土岐頼行が「牛頭天王」を京都 八坂神社から勧請し創建、八坂神社の紋は木瓜紋で、これを訓読みするとキュウリになり、それがキュウリに通じるあるいは木瓜紋が胡瓜の切り口に似ていることから、八坂神社ではキュウリを特別な食材とし、お供えに用いたり、きゅうりを食べることを慎むようになったとされています。

一方、祭神である牛頭天王は、流行病・天災をつかさどる疫神であるとともに、水神でもあり、中・近世を通じてその信仰が全国に広がった。江戸後期に至って疫神・水神たる牛頭天王イメージから川辺の妖怪河童が生み出されると、その供物としてキュウリが選ばれます。八坂神社とキュウリ、牛頭天王と河童との関係からすると妥当な選択ですが、その関係が曖昧になると、河童の好物だからと説明するようになったのでしょうか。

【石崎神社の由来】

1658 年、上山城主土岐頼行時代。全国に疫病が発生したため、上山にこの疫病を流行させないようにと、疫病除けの神として有名な「牛頭天王」を京都 八坂神社から勧請し、併せて国土安穏・五穀豊穰を祈願する社として創建された。

『石崎神社』という称号は明治維新以後のことで、それ以前までは「牛頭天王社」と称せられていた。一般的にはお天王さまと呼ばれ、上山では石崎又は片町のお天王さま、あるいはキュウリを輪切りにした断面が八坂神社の神紋に似ていたことから「胡瓜天王」さまなどと親しまれていたよう。

祭神「牛頭天王」はインドの祇園精舎の守護仏だが、日本に渡来以後は祇園天神・武塔天神と呼ばれて「須佐之男命(スサノオノミコト)」と同じ神様として信仰された。明治元年(1868 年)に布告された「神仏分離令」により 1870 年以降、石崎の牛頭天王社の呼称を石崎神社に改め、祭神も牛頭天王から須佐之男命に改められた。

ⁱ 木瓜紋(もっこうもん)は、家紋の一種で、主に「窠(か)」と呼ばれる鳥の巣を模した文様を指します。別名「木瓜(もっこう)」とも呼ばれ、バラ科の木瓜の切り口を連想させることもあります。五大家紋の一つに数えられ、多くの家で使われています。

